

1 研究テーマ

小集団の話し合い活動の中で、相手の意見や気持ちを理解したり、自分の思いを伝えたりしながら話し合いを深めることのできる授業づくり

2 テーマ設定理由

高等部3学年通常の学級には22名の生徒が在籍しており、3クラスに編成されている。近隣中学校特別支援学級から入学した生徒、近隣中学校通常学級から入学した生徒、他地区中学校特別支援学級から入学した生徒、本校中学部から入学した生徒、今年度他県の特別支援学校より転入してきた生徒で構成される。発達の段階だけでなく、過去の学校環境、家庭環境、社会経験値は様々ではあるが、これまでの生活経験を礎として、生徒同士で互いに支え合いながら、集団での生活を送ることができている。

研究1年目は少人数のグループ内で、自分の考えをわかりやすく伝える、相手（友達）の思いを聞き取ることに重点を置き研究を行った。2年目は、自分の意見と相手の意見が違った場合、どのように折り合いをつけていくかということに視点を置き研究を行った。1、2年の研究を通しての課題は、相手の意見を加味して理由を深め、納得して折り合いを付けていくことができるか。さらに、そのことが普段の学校生活・日常生活に般化させることができるかが挙げられた。

このことから、今年度は、友達の意見や自分の考えを相手に伝える活動を通じて話し合いを行い、相手の考えについて理解を深めたり考え方が違っても相手のことを思いやった建設的な意見で他者に伝えたりすることを目標にしたい。そうした実践を通じて他者との考え方の違いに気づく経験や相手のこと考えながら自分の意見を伝える力が身につく、より良いコミュニケーション関係が築けるようになるのではないかと考える。授業を展開するにあたってはグループを構成し、一人一人に役割を振った中で話し合いのテーマや決まりを明確にし、話し合い活動を行うようにする。また、個々の実態を踏まえ、特に積極的に話し合いや討論ができるグループを編成し、その中で対象グループを設定したい。さらに、対象グループ以外についてはそれぞれのグループの生徒の実態に合わせた目標を設定し、話し合い活動が展開できるようにしたい。尚、家庭や企業、福祉事業所などとの連携による評価の共有については、3年生は第I期の現場実習のみの予定であり、企業や福祉事業所との連携は難しいため、家庭や原町学園との連携で研究を進めたいと考えている。

3 研究仮説

- 学校行事である修学旅行（平成29年10月実施）と関連付け、話し合い活動を行うことで積極的な意見交換につながり、他者の考えについて理解を深める、考え方が違っても他者の気持ちを考えた建設的な意見で自分の考えを伝えたりすることができるようになるのではないかと考える。また、こうした実践を通じて、他者との考え方の違いに気づく力や他者を考えた上での自分の意見を伝える力が向上し、他者とより良いコミュニケーション関係を築いたり継続したりできるのではないかと考える。

4 研究推進方法及び研究計画

(1) 研究推進の方法

- 生活単元学習で授業研究、及び事例研究を行う。
- 3学級合同の生活単元学習において、人とのかかわりについての実態に合わせた少人数グループを編成し、生徒同士の適切なかかわりをねらいとした授業実践に取り組む。
- 自分の姿を客観視した上での望ましいコミュニケーションの方法について考えることができるように、生徒同士のかかわりを撮影したVTRなど視聴覚機器を活用する。

(2) 研究計画

- 5月
- 6月 テーマ設定・研究計画検討・作成
- 7月 グループ検討会、
- 8月 中間報告会
- 9月 グループ検討会、研究授業①（代表授業）、事後研究会
- 1月 研究のまとめ（成果と課題）
- 2月 校内研究全体協議会での報告